

幼保小学びをつなぐカリキュラム編成の過程

～福山市幼保小連携教育合同研修会(2月)発表内容より～

光小学校区



この写真は1年生と保育所の子どもたちで秋見つけに出かけた際のもので、一緒に秋を楽しんでいます。子どもたちが生き生きと学ぶ姿をめざし、校区で取り組んでいることを報告します。

今日は、この流れで説明します。

- 1 はじめに
- 2 低学年での学びづくり
- 3 幼保小でつながる学び
- 4 カリキュラムについて
- 5 おわりに



1 はじめに



本校では6年前のフロンティア校事業から、子どもたちが言葉と数を獲得していくために、対話的・体験的に学んでいくことを大切にしてきました。

幼保小連携を行う中で、就学前の経験の中で身につけた資質・能力を小学校教育につなぎ、子どもたちが、のびのびと自己を発揮し、学びを楽しむ姿をめざして、つながりを意識した新たなカリキュラムを編成していこうと考えました。



カリキュラムを編成するにあたって、まずは就学前の子どもの姿を知ることが大切だと考えました。

連携している4つの園所で保育の様子や子どもの育ちを参観したり、交流の機会をとらえて、子どもの姿を知ることが継続しました。実際に見たり聞いたりすることで、「協力して気持ちよく片付けができること」

「言葉や数に自然にふれる環境構成があること」「子どもが思考しながら活動できる支援」「保育を振り返り次へ活かす研修」等、子どもの育ちとそれを引き出す支援や研修の在り方を知りました。

2 低学年での学びづくり



1学期、わたしたちは、就学前の子どもの姿を踏まえて、いろいろな挑戦をしながら授業をつくることを楽しんできました。国語科「くちばし」では、子どもたちの「やりたい」ことが「鳥をつくること」でした。くちばしの特徴とそのわけを図鑑から読みとり、自分の鳥をつかって、「くちばしらんど」をつくりました。「するどくどがった」「ふとくてさきがまがった」などの言葉にこだわりながら読み、くちばしの形に表していました。生

活科「みずらんど」も、子どもたちの「やりたい」を引き出し、連携協議会の中で幼保の先生方にアドバイスをもらいながら、教科等と関連させた単元をつくりました。試行錯誤の連続でしたが、子どもたちの生き生きとした姿が私たちの喜びになりました。

低学年の学びづくり

1学期の取組から

☆ 子どもたちの「やりたい」を活かす
☆ ことばと数にこだわる

幼保の取組から

1学期の実践、保育参観、協議会等での意見交流から、「子どもたちのやりたいを活かす」こと、「言葉と数にこだわる」ことを意識して、2学期も授業づくりをしました。

子どもたちの「やりたい」を活かせるよう、子どもたちの興味・関心と学ぶ内容をすり合わせながらみんなで学習計画を立てています。他教科との関連も考えながら、より対話的・体験的に学んでいけるようにしています。

子どもたちの「やりたい」「知りたい」という気持ちが、学ぶ意欲の継続に効果があると実感しています。

また、子どもたちの「やりたい」を活かせるように、授業の中に対話の場面や子どもに任せる場面を増やしていきました。使いたいときにいつでも活用できる環境を整えることで、主体的に学ぶ姿が多く生まれてきました。環境構成の工夫は、幼保から学んだことです。

低学年の学びづくり

子どもたちの「やりたい」を活かす

環境構成を工夫
子どもに任せる場面を増やす

本、材料、道具、季節のもの

1年国語、1年算数、1年理科、1年社会

対話、体験

低学年の学びづくり

子どもたちの「やりたい」を活かす

子どもと立てる学習計画
意欲が継続
「やりたい! 知りたい!」

1年生活、1年国語、1年算数、1年理科、1年社会

秋のものを残したい?、授業中や休憩ではどんなことをしたの?、みんなで作った計画だよ

言葉と数については、1学期におこなった「たつじんテスト」の結果から、言葉と数の獲得には個人差があること、時間を表す言葉や動作を表す言葉が、使える知識にはなっていない実態を捉えることができました。何気ない日常や授業の中で、言葉や数に楽しく触れ、言葉の意味をみんなで体験しながら考えたりする中で、子どもたちが言葉や数を獲得していくことも実感しました。

2年生では、楽しみながら言葉にふれる教室環境を工夫して、言葉に関心をもつことや数に自然にふれることを大事にしました。言葉で道案内をする国語の授業で、体験的に言葉と出会い、繰り返し友達同士でクイズを出し合う中で、楽しく言葉を獲得していく子どもの姿がありました。たつじんテストを3学期に行うと、図形回転類推の力や空間言葉の獲得が20%以上伸びていました。また毎月カレンダーを掲示し、行事や児童の誕生日を書き、何日後には何があるということの対話を繰り返す中で、時間言葉が身に付いてきています。

低学年の学びづくり

「ことば」「数」にこだわる

図形回転類推の力向上 42%→65% (+23%)
空間ことばの獲得 29%→51% (+22%)
時間ことばの獲得 56%→80% (+24%)

教室環境

ことばにこだわる・楽しむ姿

向かって右の方向に曲がるよ、手前から2番目の角を曲がるよ、どうクイズにする?、ことばの宝箱を増やそう!

主語・述語ゲーム楽しい!

低学年の学びづくり

「ことば」「数」にこだわる

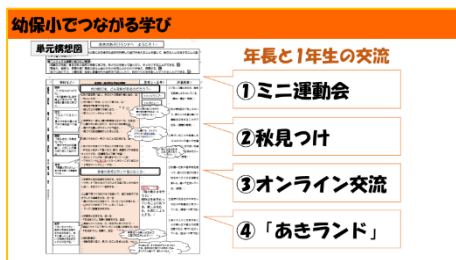
ことばを一緒に考える

ふとくて先が曲がった...、わきってどこ?、10ずつにして数えよう!、算数的活動で学び合う

1年国語、1年算数、2年算数

積み重ねるって書いてあるよ?、わきの下のこと?、1円玉10ずつ囲んだらいいわ。

3 幼保小でつながる学び



光・霞小学校区では、これまでも発表会の参観や学習のゴールで園児を招待するなど、小学校と就学前が交流することはありました。しかし、小学校側が招待するという一方通行の交流で終わっているのではないかと課題がありました。今年度は、幼保と小学校が、お互い学びのある交流にするために、それぞれねらいを明確にし、継続的・計画的に取り組んでいこうと考えました。

これは、2学期におこなった1年生「あきとなかよし」の単元構想図です。光小学校と野上保育所が何度も連携しながら行った4回の交流の様子をお伝えします。



1回目の交流です。玉入れ・リレー・球根うえを小学校でおこないました。小学校では、上級生としての自覚を持つことと、これからの交流への意欲につなげることをねらいとしました。交流を通して子どもたちは、「楽しかった!」「また一緒に遊びたい!」と次への期待を持ちました。

野上保育所では、小学校という場所へ行って、1年生と交流することに期待を持つことをねらいとしました。行

く前から、ワクワクドキドキすると、とっても楽しみにスタートしました。リレーや玉入れでは、同じチームのお兄さん・お姉さんたちと、力を合わせて楽しみ、球根植えでは、どんな色の花が咲くのか、楽しみにする会話が広がりました。学校のいすに座ったことがうれしかった子どもたちです。お土産の風船カズラを家で植えたいと、言葉がたくさんできました。



2回目の交流です。1年生と年長児で緑町公園に秋見つけに行きました。小学校では、思いやりの心をもって活動し、今後の秋ランドの学習につなげていくことをねらいとしました。子どもたちは年長さんと関わりながら、優しくできた自分や季節の変化に気づきもちました。そして幼保での経験をもとに秋のもので遊ぶことに期待感を高めました。

野上保育所では、1年生との交流を楽しみ、リードされたり支えてもらったりする中で、自分の思いを伝えながら活動することをねらいとしました。はじめは緊張していた子どもたちに、1年生が「名前はないか?」や「好きなものはなあに?」など声をかけてくれ、だんだん安心感が増し、楽しく秋見つけを行いました。どんぐりを見つけたり、形の比べ合いをしたり、前回遊んだお兄さん・お姉さんに会えてうれしかったなど、前回とは違い、保育所の子どもたちから1年生に話しかける姿がありました。うれしかった経験が、「一緒に行った緑町公園をつくりたい」と、共通体験したものを再現する姿につながりました。

3回目は途中経過をオンラインで交流しました。共通体験から、お互いに「見せたい!」という気持ちが強くありました。小学校では、相手意識を持つことをねらいとしました。年長さんの作ったものを紹介してもらい、自分たちには

幼保小でつながる学び

就学前
ねらい

楽しくオンライン交流

早く伝えたいな!

③オンライン交流
～どんなあそびにないぞうかな～



小学校
ねらい

相手意識

たのしい秋ランドにしたいね!

なかった発想に「すごーい!」と反応したり、「わたしたちと似ているね!」と自分たちの遊びと比べながら見ていました。実際に年長さんの声を聞くことで、よりよいものにしたいという意欲が向上しました。

野上保育所では、秋見つけて作ったものを見せながら説明することやオンライン交流を楽しむことをねらいとしました。どんな言葉で伝えようか、何回も読んで、何回も考えて、本番を迎えました。1年生に「説明じょうずだね」と、すてきだったことを言ってもらえたうれしさや1年生に質問する交流があったから、1年生の言い方・1年生が気付く視点を、保育所での生活で、年下児へ「その言い方すてきだったよ」と、伝える姿がありました。

幼保小でつながる学び

就学前
ねらい

・期待をもち興味を広げる

すごい!どうやって作るの?

④あきランド～あきをたのしもう～



小学校
ねらい

・楽しめるように工夫する
・思いやり

たのしんでほしいな


4回目が、「あきランド」本番です。小学校では、年長さんが楽しめるように工夫したり、わかりやすく説明したりして秋ランドを楽しむこと、一緒に遊んだり、困っていたら積極的に声をかけ、相手を思いやって行動することをねらいとしました。関連させた道徳での学びが活かされ、ねらいを達成できました。

野上保育所では、自分から1年生に思いを伝えようとしながら秋ランドを楽しむこと、1年生が作ったコーナーに期待をもって楽しみながら、どのように作ったか、なにでできているかなど興味を広げることをねらいとしました。自分たちで作った楽器やかざりを持っていき、一緒に演奏したり、かざったりして、秋ランドを一緒に作り上げたことはよい経験になりました。


野上保育所の振り返りの中で、1年生が優しく声をかけてくれたことをうれしく思う気持ちや、遊びが楽しかったこと、プレゼントをもらえて喜ぶ気持ちを言葉で伝えました。保育所に戻ってから、1年生がしてくれたことを真似、お店を開いて小さい組さんを招待したいという思いをもち活動しました。お家の人には、「小学校に4回も行ったんだよ!」とうれしかったことを伝え、小学校ってこんなところなんだ・そこに行くんだという期待が高まりました。感動・幸せという心が揺さぶられる体験と言葉がつながるすてきな機会となりました。

1年生は年長さんが喜んでくれてうれしかったことを話したり書いたりしました。単元を通してずっと意欲が持続したのは、年長さんを楽しませたいという相手意識です。何度も交流し仲良くなり楽しそうな顔を見ることが1年生の喜びとなりました。「やってよかった!」という達成感を味わいました。

保護者の方からの感想



- ・小学校を身近に感じてくれてうれしい。
- ・年長のときに交流があることがありがたい。
- ・交流や体験が安心や慣れにつながる。
- ・たくさん交流して、小学生になる期待や意欲が今まで以上にわいている。
- ・たくさんのお土産を持って帰って、うれしい気持ちから、遊びの説明や1年生とのかかわりを話す姿がうれしかった。



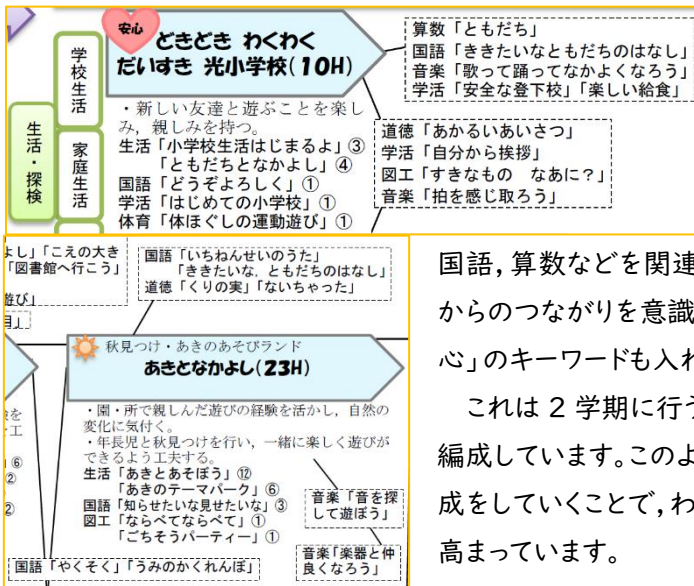
野上保育所の保護者の感想です。

「たくさん交流して、小学生になる期待や意欲が今まで以上にわいている。」等、年長児が小学校への親しみや期待感を持っていることが伝わってきます。4回交流できたことで、保護者への安心感にもつながりました。



2つ例を紹介します。「5社会生活との関わり」は西保育所の子どもの姿です。生活体験を遊びに取り入れながら、お店屋さんごっこで「いらっしゃいませ」「何が好きですか？」などの言葉のやりとりを楽しみました。自分が経験した体験を、再現して遊ぶことで、人との関わりを学んでいます。

「7自然との関わり 生命尊重」は草戸こども園の子どもの姿です。これは、子どもたちと氷づくりをしている姿です。子どもたちが、自分たちでどこに置いたら、氷ができるかな？と、考えながら、水を貼った入れ物を置き、氷をつくりました。このように自然との触れ合いを通して気づきや疑問をたくさん発見したことは、子どもたちの中に経験として残っていきます。



カリキュラムの中心には、生活科を中心とした合科的・関連的な学びを明記しています。

例えば「だいききわくわくだいきき光小学校」は、目標が「新しい友達と遊ぶことを楽しみ、親しみをもつ」で国語、学活、体育を合科的に扱い、道徳や

国語、算数などを関連的に扱います。幼児期に身につけておきたい10の姿からのつながりを意識します。この単元は入学してすぐ出会う学びなので「安心」のキーワードも入れています。

これは2学期に行う「あきとなかよし」の計画です。今年度の実践をもとに編成しています。このように実践してきた子どもの姿をもとにカリキュラムの編成をしていくことで、わたしたちの子どもの育ちと学びをつなぐという意識が高まっています。

5 おわりに

わたしたちは、年間を通して、保育参観・小学校参観・保育体験、校区での研修で、互いを知り、理解することを大事にしてきました。

草戸こども園の幼保小連携の感想です。交流を通して、子ども達は、小学校はどんなところかを知ることができ、「楽しそう」「やってみたい」という期待感を高めることができました。「1年生になってみるのは楽しそうだな。」と入学を楽しみにしています。小学校の授業を参観することで、遊びと学びがつながっていると実感しました。

西保育所の感想です。保育参観では、小学校の先生が「子どもの学び見取りシート」をもとに保育所での子どもの姿が、小学校でどんな力として発揮されるかについて具体的に協議でき、また私たちの保育を肯定的に評価してもらい自信になりました。これまでも小学校への接続を意識した保育はしていたつもりでしたが、幼保小連携の機会を多くもつことで、漠然としたイメージがより具体的なものとして実感できました。あらためて就学前教育・保育への責任感と、遊びこむこと、体験や経験を積むことの大切さを学んでいます。



育てほしい児童の姿

- なぜ?どうして?と思うことを見つけ、その課題に積極的に関わろうとしている。
- 課題に対して自分の考えをもったり、先生や友達の見解を最後まで聞いたりしている。
- 友達や先生だけでなく、年長児とも関わり、それぞれに応じた接し方ができている。
- ★安心して学校生活を送り、自分の仕事に責任を持って取り組んでいる。
- ♥体験や活動の中で、不思議だと思ったことを言葉にしたり、既習事項を使ったりする。

生「おいでよ あきのテーマパーク」

幼稚園・こども園の年長児を招待する相手意識をもち、秋見つけて採集したまつぼっくりやどんぐりなどの自然物を使って、友達と協力して作品を作る。年長児に1年生として思いやりをもって接する。◆◆◆**本単元の内容**

年長児の立場に立ったおもちゃの工夫について友達と相談したり、年長児へ思いやりの声かけをしたりする。ゲームの道具の並べ方を考えたり、時間を計ったり、得点を計算したりする。

ことばと数の獲得に向けて

幼稚園さんが楽しめるように、難しいコースと簡単なコースを作ろうよ!

子どもたちのつぶやき

3+5+4で、12点だよ。おめでとう!!

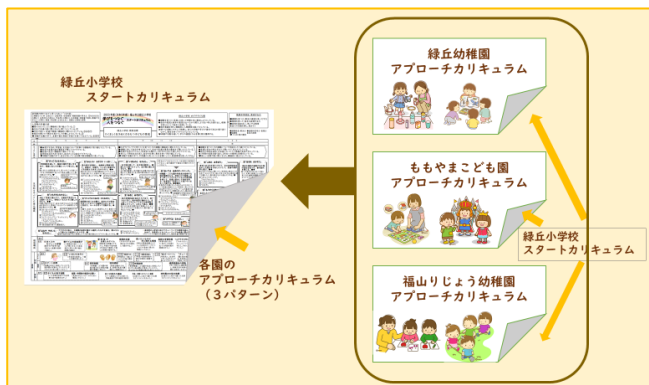
国「ものの名まえ」
「日づけとよ日」
「てがみでせう」
算「たしざん」「ひきざん」
「たすのかなひくのかな」
「かたあそび」
図「はこにつくたよ」
道「はしのうえのおかみ」

総合的・関連的な教科・単元

生活科を中心とした単元構成に示していることを具体的にお伝えします。

生活科「おいでよ あきのテーマパーク」では、単元名の下に、内容を示し、子どもたちが言葉や数に触れていく場面を取り上げています。これらは、育てほしい児童の姿の観点とリンクさせています。その下には、総合的・関連的に扱う教科の単元を載せています。これらは、今年度授業をする中で見えてきた具体的な児童の姿や、関連させて効果的であった教科・単元を載せました。また、授業の中で出てきた実際の子どもたちのつぶやきも載せることで、具体的な子どもの姿をイメージしやすくしました。

本校のスタートカリキュラムと、各園のアプローチカリキュラムが両面印刷されたものを最終の形としてイメージしています。それぞれの園の子どもたちの学びが、どのように1年生につながっているのかわかるものになればと思っています。アプローチカリキュラムについても、連携協議会の中で協議し、現在、各園で見直しをしているところです。



本校のスタートカリキュラムと、各園のアプローチカリキュラムが両面印刷されたものを最終の形としてイメージしています。それぞれの園の子どもたちの学びが、どのように1年生につながっているのかわかるものになればと思っています。アプローチカリキュラムについても、連携協議会の中で協議し、現在、各園で見直しをしているところです。

*** 単元「おいでよ あきのテーマパーク」 ***

おいでよ あきのテーマパーク

育てほしい子どもの姿

- 幼稚園・こども園の年長児を招待する相手意識をもち、秋見つけて採集したまつぼっくりやどんぐりなどの自然物を使って、友達と協力して作品を作る。年長児に1年生として接する。◆◆◆
- 年長児の立場に立ったおもちゃの工夫について友達と相談したり、年長児へ思いやりの声かけをしたりする。ゲームの道具の並べ方を考えたり、時間を計ったり、得点を計算したりする。♥

2年生 生活科 おもちゃランドへ ようこそ

招待の仕方

運営の仕方

下級生への関わり方

今年度の「おいでよ 秋のテーマパーク」では、スタートカリキュラムに示した「育てほしい子どもの姿」をめざし、どんぐりや落ち葉を使っておもちゃを作り、園児を招待して楽しんでもらう活動を計画しました。1年生にとって、園児を招待する活動は初めてでしたので、2年生の生活科単元「おもちゃランドへようこそ」に招待してもらいました。2年生の姿から、招待の仕方、運営の仕方や下級生への関わり方などのイメージがわき、「秋見つけに一緒に行けなかった園児を招待したい」と言う子がいたり、「射的をしたい」「2年生みたいにおぼけやしきをしたい!」と言う子がいたり、やる気いっぱいでした。

おいでよ あきのテーマパーク

育てほしい子どもの姿

- 幼稚園・こども園の年長児を招待する相手意識をもち、秋見つけて採集したまつぼっくりやどんぐりなどの自然物を使って、友達と協力して作品を作る。年長児に1年生として接する。◆◆◆
- 年長児の立場に立ったおもちゃの工夫について友達と相談したり、年長児へ思いやりの声かけをしたりする。ゲームの道具の並べ方を考えたり、時間を計ったり、得点を計算したりする。♥

年長さんを楽しませたい!

楽しみたい! おもちゃを作りたい!

年長さんを招待

子どもたちにとって、この単元は、最初、自分たちが楽しむことがメインの学習でした。しかし、招待状を届けた時の「やった～、楽しみ、楽しみ」と飛び跳ねながら園児が喜んでいる姿を見て、「あんなに楽しみにしてくれとる!」「ぜったいに楽しんでもらおうや」と、子どもたちの気持ちは、自分たちが楽しむことよりも園児が楽しんでくれることに変わっていききました。

おもちゃを作る段階でも、「これは、幼稚園さん、難しいんじゃない?」「簡単すぎるのもおもしろくないじゃん」など、園児がどう思うかという視点で話し合っていました。

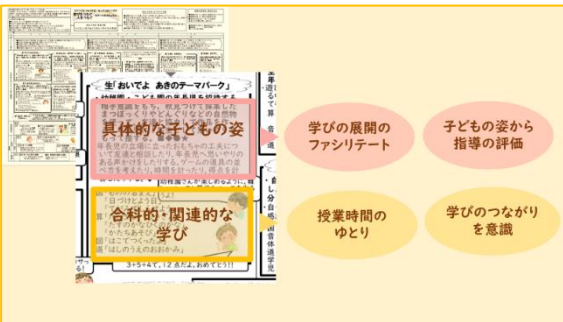


また、2年生の段ボールドームを真似て作っていたグループは、ドームが立たなくて困っているとき、休憩時間に自主的に2年生に作り方を聞きに行きました。そして、2年生が作り方の説明書を作ってくれたり、様子を見にきてくれたりしました。子どもたちの姿を見ていると、2年生から学び、園児に還元していくという縦のつながりが感じられました。



迎えた当日、1年生の子どもたちは、怖がっている園児には安心させるような声かけをしたり、ゲームを楽しんでいる子には、「すごいね。」「上手じゃん。」と一緒に喜んだりしていました。最後の振り返りの場面で、園児から「全部楽しすぎて、爆発してしまった」という感想をもらって、1年生は、「楽しんでもらえてよかった!」と、とても満足していました。

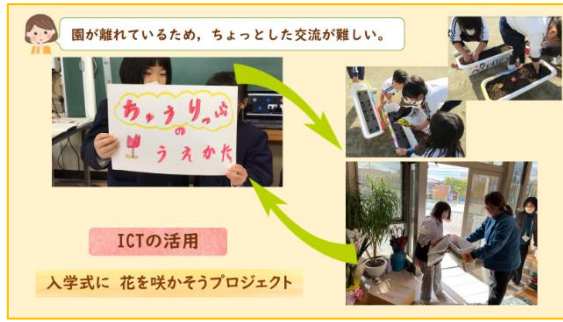
また、言葉と数については、算数科の3つの数のたし算を使って得点を計算したり、国語科の「ものの名前」で学習したお店屋さんの言葉を使ったりして、教室での言葉と数の学びを自然な形で生かしていました。



以上のように、スタートカリキュラムに児童の姿を具体的に示すことで、その姿をめざし、授業の展開を考えることができ、そこでの子どもの姿を見て、自分の指導に対する評価ができました。

さらに、合科的・関連的に学ぶことで、授業時間のゆとりが生まれ、また、子どもも指導者も学びのつながりを意識することができました。

*** 子ども同士がつながるための課題 ***



しかし、子ども同士がつながるという点では、課題もいくつかありました。1つ目は、「園が離れているため、ちょっとした交流が難しい」という点です。これについては、ICT を使った交流にチャレンジしました。幼保小の子どもたちが入学式に飾るチューリップを一緒に育てる「入学式に花を咲かそうプロジェクト」では、小学校からすこし離れている福山りじょう幼稚園やももやまこども園とは、直接の交流はできず、1年生が描いた

プランターに、園児が球根を植え、園で育てています。直接の交流はできませんでしたが、1年生が植え方を教える動画を送り、さらに園からありがとう動画が届くというICTを活用したやりとりを行うことで、距離の問題も少しではありますが、解決できているように思います。

2つ目は、「横のつながりが不十分」という点です。同じ新入生として、他の園の園児同士がつながることも大切なことだと思います。園児同士の横のつながりをつくるために、1月の「冬遊び」では、3つの園を同時に招待し、合

横のつながりが不十分。

冬遊び

3つの園の合同チームで行動

緑丘幼稚園	A	B	C
ももやまこども園	A	B	C
福山りじょう幼稚園	A	B	C

同チームで、1年生が開いている遊びコーナーを回るようにしました。5年生が一人に一人ずつ付いて回っていたので、小学生のペアと関わることが多くなり、園児同士の自然なやりとりができなかったということを含め運営面でも多くの課題が残りました。その都度、課題が出てくるのですが、子どもの姿を見て、解決のヒントを探しながらこれからも取組をすすめていきたいと思っています。

* 「たつじんテスト」の活用 *



今年度は、言葉と数の「たつじんテスト」を活用し、分析したことを日々の授業、スタートカリキュラムの改善に活かしています。これは、7月の結果です。時間を表す言葉の正答率が低いことに衝撃を受けました。

これは、動き言葉の結果です。絵を見て、口の中に言葉を入れる問題です。正答の子は赤色で示していますが、7月の段階では、どの問題も正答は半数以下となっています。

特に正答率が低かったのが、「チーズをたてにさいています」という問題です。身近な製品として「さけるチーズ」



や「さけるグミ」を知っているにも関わらず、7月の時点で、この絵と「さく」という言葉が一致せず、正答率は2%でした。この結果は、幼保小連携協議会の中で共有し、子どもたちが自然と言葉と数に触れていく場面をどのように設定していくかを協議しました。小学校では、授業の中で、対話や体験の場を多く設定し、似ている言葉の違いを考えたり、体験していることを言葉に表したりすることを意識しました。

ことばと数の調査

「さく」「ちぎる」「やぶる」

「さく」って長四角のものを細長くしていくんじゃあ。

「やぶる」って、ちよっとはくしゃくしゃになるんじゃけど、切れととところが斜めやガタガタなんじゃない?

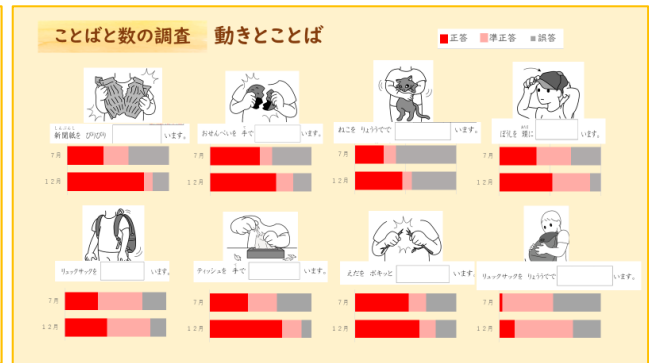
「きる」とは、なにがちがうんじゃろ?

「ちぎる」って、小さくしてくしゃくしゃになるなあ。

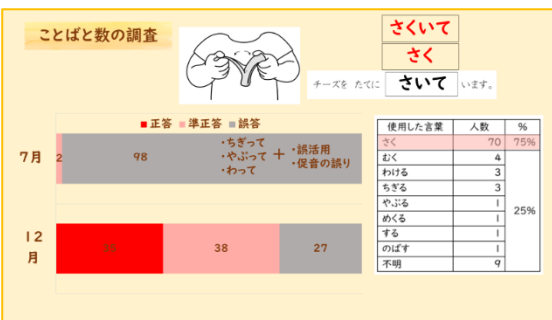
そこで、特に「さく」という言葉の正答率が低いことを受け、スズランテープや新聞紙を使って、「さく」という動作と「ちぎる」「やぶる」との違いを体験する機会を設けました。体験を通して、「『さく』って長四角のものを細長くしていくんじゃあ。」「『ちぎる』って小さくしてくしゃくしゃになるなあ。」などと自分たちの言葉で語り合っていました。さらに、「じゃあ、『切る』とは何が違うんじゃろ?」「まっすぐになるってことじゃない?」

「でも、『さく』もまっすぐになるじゃん。」「カッターを使うとき『切る』って言うよなあ。」「はさみのときも。」「なんか道具を使うとき『切る』って言うんじゃない?」と自分たちで疑問を出し、自分たちの言葉で言葉の意味を習得していました。

このような体験を通し、12月同じテストをもう一度すると、どの設問も正答率がぐっと上がりました。動き言葉も書けるようになった子が増えています。



「さく」を使った設問では、正答率が上がるだけでなく、誤答を含め全体の75%の児童が「さく」という言葉を選択できていました。「さく」という言葉を選択していながら、空欄に、「さく」「さくいて」などと記している児童がおり、次の課題は、後ろに続く言葉に合わせた動詞の活用だと分かりました。



また、「さく」については、生活科で凧あげをしたとき、隣のクラスで、「先生、凧のあしがさけたよ!」と担任に教えてくれた子がいました。そのことを学年会でも話題に挙げ、知らなかった言葉を、生活の中で生きた言葉としてつかえるようになっていることに職員で喜びました。

先日も、子どもたちの言葉の獲得について、国語科「たぬきの糸車」のこのような文が話題になりました。子どもたちに動作化させると、まず、「たばねて」のところで「ん!？」と止まりました。一人の子が、筆箱から鉛筆をたくさん出してきて「こうやって集めるんよ」とみんなに見せました。「そうめんも束って言っとったわ」「そのたば?」と子どもたちはイメージを膨らませます。次の「わきにつみかさねました」で、全員迷うことなく、持っていた鉛筆の束を脇の下に挟みました。私が「わきにつみかさねて」と言いながら正しく動作化すると、「え~!横に置くってこと!？」と自然と「わきに」という言葉を自分の言葉で言い換えて正しく動作化ができるようになりました。



「うちのクラスでは、束は花束に置き換えて何本かをまとめることじゃない?って言っとったよ」と子どもたちの言葉と数の獲得について学年会で話題になることも多く、言葉と数に敏感に教育活動を行うようになったことは、私たちの大きな変化だと感じています。

*** 就学前の子どもの姿 ***

このような「言葉と数」の獲得の素地として、就学前での遊びや環境の中でたっぴりと育まれてきた「言葉と数」の感覚や力が大きいと感じています。緑丘小学校区の3つの園より、幼児期の終わりまでに育てほしい「10の姿」のうち、次の2項目についての子どもの姿をお伝えします。

- ⑧ 数量、図形、文字等への関心、感覚
- ⑨ 言葉による伝え合い

○ ももやまこども園

就学前の子どもの姿 **ももやまこども園**
⑧数量、図形、文字等への関心、感覚




カレンダーを使った時間感覚

ももやまこども園では、日常的に、数字の磁石を使って日にちを確認したり、カレンダーに書いてある行事を楽しみにし、「あと何日」と数を数えたりしています。その中で、子どもたちから卒園に向けて、カウントダウンカレンダーを作りたいという案がでています。残りの園生活を十分楽しみ、小学校への期待をもって過ごせるようにカレンダーを活用していきたいと思っています。

就学前の子どもの姿 **ももやまこども園**
⑨言葉による伝え合い




劇あそびを通した表現方法の話合い



大きく動いたらいいんじゃない？

うなぎは、くねくねしてるから、手を伸ばしたり、足を曲げたりしたらいいね。

また、発表会に向けて「スイミー」のお話を題材にした劇遊びをするなかで、うなぎの動きをどのように表現するかの話合いの機会を設け、出た意見をもとに表現していきました。こうした活動を通し、子どもたちは、言葉で自分の考えや思いを伝える楽しさを感じ、また相手の話を聞くことの大切さも学んでいます。

○ 福山りじょう幼稚園

就学前の子どもの姿 **福山りじょう幼稚園**
⑧数量、図形、文字等への関心、感覚





カルタ・トランプ遊びを通した数感覚

分数のもとになる数量の感覚遊び

福山りじょう幼稚園では、ホールケーキやピザなどの台紙で、2等分、3等分、6等分にしたものを用いていろいろな組み合わせながら「まる」、つまり元の数となる「1」にすることを楽しんでいます。また、かるたやトランプ遊びをするなかで、数量や文字などの感覚が豊かに育っています。

就学前の子どもの姿 **福山りじょう幼稚園**
⑨言葉による伝え合い



朝の会のスピーチ

好きな動物は、カメです。

今日は、「好きな動物」の発表をしよう。

カメはどうぶつじゃないよ。爬虫類だよ。

でも、動物園にいるよね。

じゃあ、動物だね。

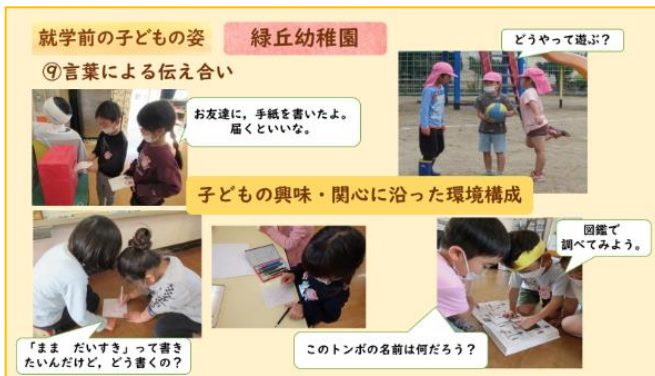
また、朝の健康観察の際、テーマを決めて子どもたちが一言ずつ発言する機会を作っています。この日は、ある子が「好きな動物はカメです。」と言うと「カメは動物じゃないよ。爬虫類だよ」と言う子がいました。それに対し「でも、動物園におるよね。」「じゃあ、動物だね。」など、経験から自分の考えを伝える姿がありました。発言したことに友だちから共感や興味をもってもらえる経験を繰り返すうちに、他の活動でも自分の思いを躊躇せず発言したり、新たな提案を受け入れてみたりと言葉による伝え合いを楽しみようになっていきます。

○ 緑丘幼稚園



緑丘幼稚園では、6月にたくさんのジャガイモを収穫しました。「何個あるのかな？」という子どもの言葉から、みんなでジャガイモを並べてみました。数を数えたり、重さの違いに気づいたり、形の違いに気づいたりしていました。自然物や身近な素材で作った「コリントゲーム」では、簡単そうなゴールには10ポイント、難しいゴールには100ポイントと書くなど、子どもなりに数字の大きさをとらえているようでした。このような生活

や遊びのなかで、子どもたちは、数量の感覚を身につけています。また、安心して伸び伸びと自己発揮できる人間関係を基盤に子どもの興味関心に沿った環境を工夫をするなかで、自分の経験や考えを「伝えたい」という気持ちも育っています。ドッジボールのルールを話し合うときや、興味のあるものを友だちと一緒に探したり調べたりするときなど言葉による伝え合いの姿が見られました。このような姿は、いろいろな場面で見られます。



お手紙ごっこでは、手紙を書いている子どもの姿から、次の日、保育者がそっと保育室へポストを置いておきました。集中して手紙を書く子、友だちに聞きながら文字を書こうとする子など、適切な環境を設定することで、より伝えたい気持ちが増えています。

就学前にどのような遊びや活動の中で「言葉と数」に1年生が触れてきているのかを、幼保小連携の取組みを通して、初めて意識するようになりました。

「言葉と数の獲得」には、経験や自分たちの言葉で語る場を意図的に多く設けることで、今までの経験を想起しながら、新しい言葉に自分たちの言葉を重ねていくことができているように思います。引き続き、すべての教育活動の中で意識して取組を進め、カリキュラムに反映させていきます。

*** おわりに ***

今年度は幼保小の「学び」や「人」を繋ぐために新しいチャレンジをしてきました。課題もたくさんありましたが、園児にとっては、小学校が身近になり期待をもてる場所になりつつあります。また、1年生にとっては、小学校では一番年下の自分たちが、年長者として関わることのできる機会になっています。職員同士も、昨年度よりも顔を見て話す機会が増え、連携が取りやすくなったように感じます。

来年度は、今年度の反省を生かし、言葉と数を自然に子どもたちが獲得していけるよう、子どもへの声かけや環境の作り方をお互いに共有しながら、子どもたちにとって実りのある連携をしていきたいと思っています。

